

町の活動特集



hida

広 報

ひだ

町 木



第47号

肥 田 町
まちおこし推進協議会
H20.7.10発行

田園の景観保全へ 第二次ヒメイワダレソウ 植苗作業を行う

6月15日、まちおこし推進協議会のメンバー総出で、昨年に実施した上田地区での250メートルに及ぶ農業用水路側壁の畦畔の崩れ防止と雑草繁茂を防ぎたいの成果を受けて、今回は更に続く100メートル地帯へのヒメイワダレソウ400苗の植苗作業を実施しました。またそれに並行して、前年実施した地帯全部の点検と雑草の除去作業も行い、田園の景観づくりを一步一步と進めて来ています。

まちおこし推進協議会

大村治兵衛さん

健康長寿100歳おめでとうございます。

元気に歩かれ、お話も出来て病知らずの百歳。

大先輩の大村治兵衛氏は明治41年5月7日生まれ、明治、大正、昭和、平成と見つめながら今年100歳をめでたく迎えられるました。記念のインタビューをさせて頂きました。大先輩治兵衛氏は、ひたすら歴史と伝統のある私どもの肥田町を思い、自分の町は自分で守るのだという気概を大切に立ち向かってきたことを今も誇りとしておられます。実際に村会議員、町会議員、市会議員を務められその信念を貫いて来られて叙勲の栄にも浴しておられます。その底辺を支えたものが常に欲、得にこだわらず前向きに取り組んだことが今

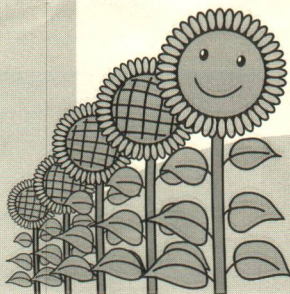
日にあると語られました。今、100歳を迎えられた心境はと尋ねたところ、「さっぱりした」の一言に色々と意味深いところがあり、悟りに近い姿かなとも思えました。一方で大先輩は、若くして華道に精進を重ねられ、佛花の型の奥義も極められて、広い範囲の人びとのお世話をされて来ておられます。これからも更に元気で肥田町の生き字引きとして私たちに色々と教えていただければと願っています。我々もいつまでも元気に歩いて頭もすっかりと喋れる健康な齢を重ねたいものだと思います。次第です。

肥田町自治会長からご長寿を祝し、記念品を呈上しました。

3月24日

子供グラウンド ゴルフ教室開催

応援 あじさいクラブ



肥田町小宮祭

5月18日(肥田町三つの町の合同祭事)

若い元気が町を巡る

崇徳寺境内に祀られている「火伏せの神さん」の祭事に始まり、初夏の町内を子どもみこしと大太鼓の賑やかな巡行。

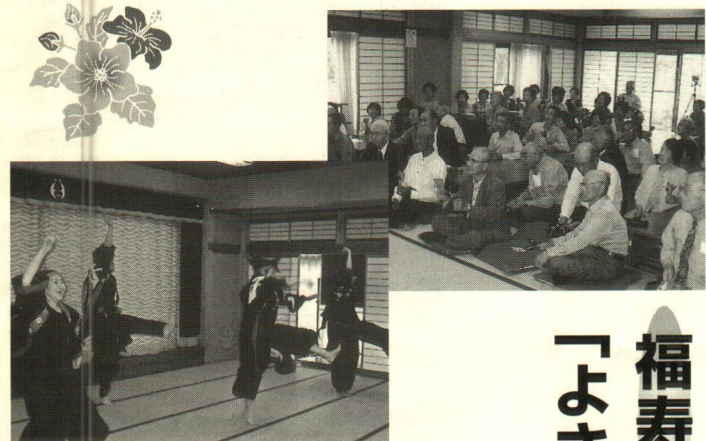
火伏せの神さんーここには「おいなりさん」と「あたごさん」が祀っており、おいなりさんは五穀をつかさどる倉稲魂を祀り、また色々な仕事の守護神として、あたごさんは雷神を祀り町の防火の守護神として崇められている。是非お参りをよろしく。

肥田町自治会



福寿会

「よさこい」に 弾ける元気



5月24日、福寿会の総会に聖泉大学「よさこいはじめチーム」を招き、福寿会全員が大学チームの激しい「よさこい」の舞いのリズムに合わせ、鳴子をこれまた激しく振り叩き、会場は大きく盛り上がり、素晴らしい元気の交歓会となりました。

稲枝東小学校 3 年生社会科の地域学習で肥田町訪問

5月19日 今回は3年生80名で、城下町肥田のお城や文化の流れや、まちづくり活動への人びとの努力を勉強するのが目的でした。また宇曾川で出会った風船ダムや、ホテルを呼び戻そうの環境への関心まで広がり、熱心にノート片手に勉強の時間でした。

(ゲストティーチャーを高瀬俊英、藤野泰弘がつとめました。)



(肥田町公民館 壁画)

濃尾古城探訪の会 40 名 肥田城の研修・訪問

5月25日に肥田町を訪ねられた探訪の会のメンバーは名古屋、岐阜方面の方で全国の古城研修の旅を続けておられる。肥田城の特性や歴史口マンロードに興味を持たれ、特に土塁に関心が高かったようです。肥田城歴代の城主の中で、高野瀬氏の後を受けて肥田城主になった蜂屋頼隆は、美濃武士の出で、このたび来られた会の皆さんとご縁が深い。

後日に生徒の皆さんからたくさんの感想文をいただきました。有難うございます。その中から一部分を紹介させていただきました。

ぼくは、ひだじょうの話を聞くのがたのしみでした。なぜかと言うと肥田におしるがあったなんてしなかったからです。ちゃんと、おとのさまもいたんだとわかってびっくりしました。それで肥田の町がどんな町かわかりました。

稲枝には、120年前には肥田をはじめとして4つの学校があったことはすごいなあと思いました。昔は4年生までというのものがびっくりでした。

今は風船ダムだけど、むかしは、くいを打って、たわらに石をつめて水をせき止めていたことを、はじめて知りました。

皆さんの感想文の終わりには、「私たちも勉強がんばりますので、町の皆さんも頑張ってください、応援しています」と励ましをたくさんいただきました。ありがとうございました。

来られた皆さんの、しっかり前を向いての姿勢にも感心しましたし、また幅広く文化教育への学校のご努力にも嬉しく感謝しています。



2008.05.19

「町の人のがんばり」を教えてくださいありがとうございます。とてもがんばっていたと思う。「くふうしているんだなあ」ずーっとずーっとよくおもいました。

町をあかるくするため、花を咲かせようや、あいさつうんどうをしたりと、すごいなあとおもいました。

ホテルの話の中では川がよごれてホテルがいなくなったと話してくれて、川をよごさないようにしようとして自分でも気をつけようとおもいました。

続三



四

いま小字「丹波屋敷」から「山王」にかけて、圃場整備工事のための文化財発掘調査が精力的に進められています。ここは城址や武家屋敷があったと考えられている場所で、室町時代の住居跡がでてきたようです【写真】。くわしい調査結果が待たれます。

連載・戦国城下町肥田(2)

高瀬俊英

室町時代の後半、約百年ほどは日本全国各地で戦争がおきました。だから戦国時代ともいいました。城はそのための要塞であり、戦争になると城下町は軍事基地となりました。肥田は戦国城下町だったため、きびしい訓練にあいました。戦場になったのです。

当時近江の国は、観音寺山に城をもつ佐々木一族の六角氏が、足利將軍から近江の守護をまかされ統治していました。しかし完全な支配権をもっていたかというところではなく、それぞれの地方に根を張った在地領主(肥田城主もその一人・国人という)を無視することはできませんでした。六角氏の下には有力な国人四十八人衆がいたといわれています。

湖北の山東には同じ佐々木一族の出である京極氏があり、鎌倉初期には六角氏をしのいでいました。京極氏の下で働いていた浅井氏は、京極氏を奉戴しながら、やがては湖北の国人を統率する戦国大名に成長していきました。

五

湖北、湖南、湖東を支配している六角氏と、湖北で頭角をあらわしてきた浅井氏との勢力圏の狭間が、佐和山から肥田にいたる現彦根地方です。

長い間、六角氏に従っていた肥田城主の高野瀬氏でしたが、浅井氏が台頭してくると、そちらからの勧誘も次第にはげしくなってきました。

【次号に続く】